

1982 年 栃木県宇都宮市生まれ。7 歳より、和久文子氏のもとで箏を始める。

2007 年 東海大学大学院芸術学研究科音響芸術専攻修了。在学中より、福永千恵子氏に師事。

修士論文:「現代邦楽における十七絃箏の展開―菊地梯子氏の活動を中心に―」

【主なソロ活動・国内リサイタル】

2014 年 第 10 回宇都宮エスペール賞受賞者成果発表公演「吉澤延隆 箏リサイタル―つなぐ―」(主催:公益財団法人うつのみや文化創造財団)

2012 年 「天体と KOTO 〜プラネタリウム・箏コンサート〜」(主催:栃木県子ども総合科学館)を企画。

2011 年 第 18 回神奈川国際芸術フェスティバル ―柳慧プロデュース「千年の響き ENSEMBLE NEW TRADITION」(主催:神奈川県民ホール 芸術総監督:一柳慧)において、ヴァイオリンと箏のための《残照の時》作品 52 (石井眞木作曲)を演奏。

2010 年 インターナショナル・アンサンブル・モデルンアカデミー with トーキョーワンダーサイト(主催:東京都歴史文化財団 TWS)においてファイナルコンサートに出演。

2009 年 「吉澤延隆 箏リサイタル―展開―」(古賀政男音楽博物館内けやきホール)を開催。

2007 年 「吉澤延隆 箏リサイタル」(東京オペラシティリサイタルホール)を開催。

【主な海外公演活動】

2013 年 フランス・パリ 18 区でのソロ公演及びパリ国立高等音楽院(ジェラルド・ペゾン作曲研究室)にて楽器レクチャーを行う。

2011 年 34th Huddersfield Contemporary Music Festival 「hcmf// shorts」(イギリス)で、ソロコンサート「Nobutaka Yoshizawa KOTO」を企画・開催し、箏の可能性、魅力を紹介する。

2010 年 日本・トルコ友好年海外公演 「MATSURI 2010 GAZIANTEP」(トルコ共和国カジアンテップ市主催)にて公演。

2005 年 アジアの伝統音楽に関する国際会議とシンポジウム(韓国・ソウル)に箏奏者として参加し、韓国、中国、タイ、ベトナム、インド、カザフスタンといったアジアの楽器による合同演奏、及びレクチャーコンサートに出演。

【舞台・メディア・レコーディング】

2014 年 CD「KOTO Nobutaka Yoshizawa」(ENRU-001)をリリース。

2009 年 NHK・教育 TV 芸能花舞台「今かがやく若手たち」に出演し、全国放送が好評を得る。

2009 年 翻案劇《サロメ》(主催:テレビ朝日、原作:オスカー・ワイルド、演出:鈴木勝秀)の楽師として、東京、北九州、大阪、金沢、新潟、全国5都市公演で十七絃箏を担当。

【受賞・助成等】

2011 年 活躍が期待される芸術家に贈られる第10回「宇都宮エスペール賞」を宇都宮市より受賞。

2009 年 宇都宮市より「うつのみや市民賞」を受賞。

2008 年 第 15 回賢順記念全国箏曲コンクールにおいて最高賞の賢順賞を受賞。

2006 年 平成 18 年度文化庁新進芸術家国内研修制度研修員に採用。

同年 6 月から 2007 年 3 月まで、研修題目「箏の現代作品と古典三絃の修得」のもと、箏、十七絃箏を菊地梯子氏(菊地梯子箏曲研究所)、沢井一恵氏、福永千恵子氏(沢井箏曲院)、地歌三絃を芦垣美穂氏(芦垣美穂箏曲研究所)、アナリーゼを作曲家・嶋津武仁氏のもとで学ぶ。